

シンポジウム「2050年カーボンニュートラル実現に向けた下水道の挑戦」質問と回答

| | 質問 | 回答 |
|---|---|--|
| 1 | <p>米国の主要都市が既実践している、街路樹などの緑地帯の浸透機能をより高める工夫がなされたグリーンインフラ。 下水道施設に対する負荷軽減につながります。 その効果を定量で示すことも可能です。 グリーンインフラはカーボンニュートラル実現に向けた具体策の一つに成り得ますでしょうか？</p> | <p>・大阪市では、公園事業と連携して、公園の地下に雨水貯留浸透施設を整備する取組みを進めています。浸水被害の軽減対策としての整備効果については定量的に評価していますが、環境対策としては定量的な評価を実施していません。 ・GIの多様な機能のひとつにカーボンニュートラルへの貢献があると考えています。GIの機能を見える化し、透明性の高い方法で評価すること、さらに一定のまとまりある規模でGIを確保していくことが効果的であり、そのためには公民連携を含む様々な主体が連携して取り組んでいくことが重要と考えます。</p> |
| 2 | <p>津守下水処理場の消化ガス発電事業について、事業終了が近づいていますが今後事業や施設はどのようにしていこうとされていますか？事業開始時の見込みからずれてしまった効果や新たに分かってきた課題と併せてご教示いただければと思います。</p> | <p>本事業は平成19年度から運転開始し、令和9年3月末に事業契約が終了する予定となっています。これまで、計画値を上回る実績発電量となっており、事業効果は発揮されています。今後の事業展開については、脱炭素等の社会的なニーズをふまえ、その時代に最適な技術及び運営方式を選定することとなると考えます。</p> |
| 3 | <p>消化ガスを都市ガスに注入することによるCO2削減実績は、どの段階でカウントされるのでしょうか。神戸市様の実績となるのでしょうか。よろしく申し上げます。</p> | <p>市関係部局との協議の上、間接的削減として神戸市の削減実績に計上しています。</p> |
| 4 | <p>都市ガスのカーボンニュートラルについて、2050年の目指す姿でCNメタンが90%に対してバイオガスは5%ほどとなっていますが、下水道の消化ガス等のバイオガスを増産し高度に精製して利用するよりも、メタネーションによるCNメタン製造のほうが経済的になるとお考えということでしょうか。その場合、バイオガスはガス協会さまにとっては経済的には原料等としてあえて購入する必要のない存在になるのでしょうか。</p> | <p>都市ガス業界では、今後のカーボンニュートラルを進めていく上で、バイオガスの積極的な活用を検討していく必要があると考えております。2025年の大阪万博会場では、バイオガスを原料にメタネーションによるメタン化率を上げ、カーボンニュートラルメタンとして供給する実証事業を検討しております。2050年の導入割合は、現時点で目標値であり、将来の環境変化により左右されるものと考えています。なお、都市ガス販売量は、全国で約400億m³/年、下水場由来のバイオガスは約4億m³/年と認識しており、ここをベース推定したものとなります。</p> |

※無断転載禁止